

となり、数回の霜【4月上旬(深)、4月下旬(軽)、5月初め(微)】、一部圃場では霜など悪天候が続き、植付作業は2~4週間程度遅れました(一部5月植え)。霜の被害が一様に語られていますが、気温データからは4月上旬の寒波が深刻で、他2回は圃場での対策でカバーできる水準でした。4月上旬時点では、悪天候の影響で、1年栽培はまだあまり定植されておらず、主な被害は、発芽が早く体の小さい2年栽培の種球圃場(ネイキッドスケール)と言われており、2024年産への影響が心配され始めています。

一方、販売球の2年栽培は霜の影響よりも、長雨で消毒作業が行えず、ボトが広まった事が懸念されています。一般に、2年栽培圃場は、過剰な肥大を抑えるため密植されており、風通しが悪い畝内部は通常でもボトや日照不足によって下葉が上がるものですが、一つの圃場や特定ロットの被害写真がSNS等で拡散されオランダ全体の印象に感じたり、2年種球と2年販売球は混同されやすいのでご注意ください。尚、5月中旬以降、天気は回復しています。

③ 6月のゆりの展示会(6月15.16.17日)がまもなく開催!!

オランダでは6月6~9日にダッチリリーデイズが開催され、その翌週に日本で「6月のゆりの展示会」が開催されます。今年は、秋にイギリスで行われる「インターフローラワールドカップ2023」の日本代表である小松弘典さんや、4名のオランダ人もご来場(ナイトフェスタ参加)予定です。場内展示パネルでは、世界の球根情勢や輸出会社紹介などインターナショナルなコンテンツを準備しております。

ここ数日で、気の早い品種が数品種ほどフライング開花しておりますが、弊社試験ハウスは、ヒートポンプでの暖房も冷房も可能ですので、できる限り多くの品種をご来場の皆様にご覧いただけるよう、天候に合わせて調整しております。近年、夏の夜冷技術により、品質向上や作型延長に成功されている生産者が増え、長期安定出荷は特に雇用を抱える皆様の経営にとって重要になっています。狙った出荷期に合わせて計画生産できるのが百合の特徴であり、年間3(4)回の試験を行っている弊社の品種栽培データは、ご参考にしていただければと思います。今年の酷暑試験では、久々に夜冷試験区を設置しようと思っております。

昨今の世界情勢は、私ども輸入会社にとって厳しいものがありますが、皆様のご支援と信頼関係に支えられ、元気に上を向いて歩いています! 4月28日付情勢報告で、「ルネサンス時代に」と称しましたが、日本の百合(球根)業界は、古き良きを偲びつつ、実質的な新しい世界へと踏み出しました。

「ナイトフェスタ(要申込)」の飲み放題にシャンパンはありませんが、友との再会と団結を祝し「るねっさ〜んす!(乾杯)」(古っ…)いたしたく存じます。以上